



▲コンフラン＝サント・ノリーヌの街



▲川沿いの風景



▲プリュレ城(現在は内陸水運博物館として使われている建物)



▲焼き菓子専門店  
「Confans Saint honorine」  
(武蔵中原)

# フランス共和国 コンフラン＝サント・ノリーヌ市



**中島 幸二さん**  
 大手洋菓子企業で30年、製品開発に従事。仏コンフラン＝サント・ノリーヌ市で修行後、2023年武蔵中原に洋菓子店を開業。ジャパンケーキショーで金賞受賞。キリクリームチーズコンクール2位

私がフランスで過ごしたコンフラン＝サント・ノリーヌ(注)は、セーヌ川とオーワーズ川が合流する場所にある、穏やかで歴史のある街です。

私はこの街の菓子店で働きながら、日々の暮らしを送っていました。朝、仕事へ向かう途中に目にするセーヌ川の景色、週末に川沿いを歩きながら立ち寄ったマルシェ、そして、仕事の後に店で同僚や常連さんと過ごした何気ない時間一。そうした日常の積み重ねが、今でも私の中に深く残っています。

休日になると、セーヌ川沿いには

人々が自然と集まり、新鮮な野菜やチーズ、焼きたてのパンやお菓子の店が並びます。川の流れるを眺めながら散歩をし、そのまま川沿いのレストランでゆっくり食事をを楽しむ。そんな穏やかな時間こそが、この街らしさだと感じていました。

街の高台には古城プリュレ城(Château du Prieuré)の旧跡が残っており、そこから見下ろすセーヌ川の景色は、今でも忘れられません。長い歴史の中で、人々の暮らしが静かに受け継がれてきたことを、実感させてくれる場所です。

言葉が完璧でなくても、「C'était délicieux!(おいしかったよ)」「Je reviendrai.(また来るね)」そんな一言が、自然と心の距離を縮めてくれました。コンフラン＝サント・ノリーヌは、お菓子や食事、そして街そのものが、人と

**I N F O R M A T I O N**

**フランス共和国**

人口 約6,860万人  
 面積 549,134km<sup>2</sup>  
 首都 パリ  
 言語 フランス語

人をつないでくれる存在だったように思います。

今、川崎で営んでいる私の店「コンフラン・サント・ノリーヌ」では、この街で菓子職人として過ごした時間や、セーヌ川沿いで感じた穏やかな空気をお菓子を通して少しでも表現できればと考えています。

(注) 地名は、ラテン語で合流を意味するConflansと、876年にここで見つかった聖遺物の聖人「Sainte-Honorine(聖オノリーヌ)」から名付けられた。

## 外国につながる子どもと保護者のためのプレスクール

(外国につながる子どものための小学校入学説明会)

まず、保護者に、日本の学校制度や学校生活の流れについて説明し、入学後の生活を具体的にイメージできるようにしました。教育委員会と共催したことで、学校の実情に即した内容を提供できたことは大きな成果だと思います。また、日本語に不安のある保護者には同時通訳を配し、安心して参加できる環境を整えました。その結果、内容の理解が深まり、積極的に質問や意見交換を行う様子が見られました。

子どもたちには、学校生活で使う日本語や集団生活における基本的なルールを体験的な活動を通して教えました。子どもたちは楽しみながら意欲的に参加していました。

さらに、来場した親子に「図書・資料室」を案内し、日本語学習や子育てに役立つ資料を紹介しました。今後の家庭での学びや継続的な利用につながることを期待されます。



会場の様子

今年から、午前・午後の2部制で実施したので、参加者は自分の都合に応じた参加が可能となりました。今後も外国につながる子どもと保護者の双方にとって、有意義な学びの機会を提供していきたいと思っています。

(文:川崎市国際交流協会 蔣 香梅)

多文化共生の取り組みにフォーカス!

## 「外国につながる子どもの寺子屋」ボランティア養成講座

外国につながる子どもが安心できる地域の居場所づくりを目指して、毎週土曜日に「外国につながる子どもの寺子屋」を開いています。日本語がわからないために、学校の授業についていけない子どもに、日本語や教科学習についてサポートする場です。

この寺子屋のボランティアを育てる講座を1月31日から全4回で開催しました。1回目は田嶋麻理子講師(川崎市教育委員会)による「川崎市の外国につながる子どもの現状と課題・学校の取り組み」、2回目は樋口万喜子講師(NPO日本語・教科学習支援ネット代表)による「日本語と教科学習支援の具体的な方法(日本語力ゼロのこどもたちとどう向き合うか、生活言語と学習言語の違いなど)」、3回目は中村ノーマン講師(多文化活動連絡協議会代表)による「外国につながる子どもを取り巻く環境と川崎市国際交流センターの寺子屋について」、4回目は実際に交流センターの寺子屋を見学するというプログラムです。



田嶋麻理子講師

家庭では母国語で生活している子どもたちに、根気よく寄り添うことで、日本で自立していくことにつながればと思っています。

(文・写真 川崎市国際交流協会 加藤 恵美)



交流会

En Globe(エングローブ)は、国籍や言語の違いを越えて「国ではなく、人としてつながる」ことを目的とする国際共創コミュニティです。川崎市を拠点に、日本人・外国人が自然に混ざり合い、出会いとリアルな体験を一緒につくる場を運営しています。私たちが大切にしているのは、イベントを通して共に笑い、協力しながら、相手を一人の人として理解していくことです。

En Globeの立ち上げは、代表 高部の「子供たちにリアルな国際体験を提供してグローバルな人材育成につなげたい」、また、共同代表 ペレーラの「日本のみんなが海外の文化を知る機会を増やしたい」「地域住民と在日外国人が交流できる場をつくりたい」「外国人も日本の文化・日本社会になじむ機会をつくりたい」という想いを目標として、フェスティバルを開催するのが始まりです。

このフェスティバルには3,000人超の来場があり、年齢や国籍を超えて、日本にしながら「リアルな海外体験」ができたことも大きな魅力となりました。そして、川崎市国際交流センターの「インターナショナル・フェスティバルinカワサキ」への出展(世界の公園)、川崎フロンターレとの共同企画「外国人総合案内所」など、これまで子どもから大人まで楽しめる参加型コンテンツを展開してきました。会場では、初対面同士でも「一緒にやってみよう!」が生まれ、「その人らしさ」を起点に会話が広がっていきます。多くの日本人・外国人ボランティアの皆さんにも支えられ、運営そのものが多文化の学び合いの場になっています。

第二回「国際スポーツ&カルチャーフェスティバル」は5月16日に「生田緑地中央広場」で開催します。ボランティアへのご参加、ご協力・応援お待ちしております。



川崎フロンターレとの共同企画「外国人総合案内所」



En Globe  
代表: 高部 真生  
ペレーラ・ラヒル・サンケータ  
連絡先: contact@englobe.jp



図書・資料室から本のご紹介  
『それはわたしが外国人だから?』



安田菜津紀著、金井真紀文・絵(ハウレーカ 2024.4)



多様性と聞いてどんなことを思い浮かべますか。この社会はすでに多様です。でも、社会は多様性が守られていますか。一人ひとりが大切にされていますか。この本は子どもにも伝わるよう平易なことばで、まとめられています(漢字はすべてルビ付きです)。あちらこちらで「多様性の尊重」がいわれているのに、「そこから排除される人たちがいるのはなぜだろう」「共に生きるってなんだろう」そんな対話のきっかけになることを願って書かれた本です。

『お話の種をまいて フェルトリコ出身の司書プーラ・ベルブレ』

アニカ・アルダムイ・デニス作、パオラ・エスコバル絵、星野由美訳(汐文社 2019)

1921年、プーラはアブレラ(おばあちゃん)が語ってくれたお話を胸に、フェルトリコからニューヨークにやってきました。図書館の司書として働くことになったのですが、本棚には故郷の民話など一冊もないのを見て、プーラが始めたこととは? 実際、ニューヨークで司書、作家、人形遣い、民話の語り手として活躍し、「プーラ・ベルブレ賞」(注)としてその名が残ることになった女性の伝記絵本です。



(注) ラテンアメリカの文化を描いた優れた児童書・ヤングアダルト作品の作家、画家に贈られる賞。

多文化共生の  
取り組みに  
フォーカス!

2月14日に、仲田シリワン講師(タイ出身、当協会の国際理解教育支援ボランティア)からタイの言葉と文化と料理を学ぶ講座を開催しました。23名の参加者はタイ語の挨拶や母音の文字を学んでゲームを楽しんだ後、タイ料理を作って味わいました。



タイ料理を作っている参加者



仲田シリワン講師

以下のレシピでみなさんもタイのデザート体験してみてください。

コーン入りココナッツミルクタピオカ

- 材料【10人分】
- タピオカ…………… 100g
- スイートコーンの缶詰(粒)…………… 1個
- ココナッツミルク…………… 100cc
- 砂糖…………… 100g
- 水…………… 600cc
- 塩…………… 小さじ1/8程度



- 作り方
- ①鍋で分量の湯を沸かし、乾燥タピオカを入れて15分ほどかき混ぜる。(茹でる時間はそれぞれの説明書きに従う)
- ②①の鍋に砂糖とスイートコーンを入れて、数分間かき混ぜる。
- ③別の鍋にココナッツミルクと塩(親指と人差し指で軽くつまんだくらい)を入れ、軽く沸騰させる。
- ④②のタピオカを深皿に盛り、③のココナッツミルクを注ぐと出来上がり。

(レシピ提供: 仲田 シリワン 文・写真: 川崎市国際交流協会 加藤 恵美)

タイ語による国際理解講座

# Event & Lecture イベント・講座案内

## 川崎市国際交流協会・センターの事業(予定)

※開催時期や内容の変更、中止する場合があります。ご了承ください。

<p><b>春休み♪こども語学教室 26日(木)~28日(土)</b> ネイティブ講師によるこども英語A(小学1・2年生)、B(小学3・4年生)、こどもスペイン語(小学1~5年生)の教室。</p>	<p><b>7月 夏休み♪こども語学教室(英語ほか) 下旬</b> ネイティブ講師との交流を通して、外国語や世界に触れる語学教室。</p>
<p><b>3月</b> <b>スペイン語による国際理解講座 29日(日)</b> スペイン語でズンパを踊ろう! ネイティブ講師と一緒に体を動かしながら簡単なスペイン語も学べます。</p>	<p><b>8月</b> <b>生活オリエンテーション・出張相談</b> <b>無料</b> <b>2月</b> 生活一般についての疑問や困り事の相談を始め、就学や行政手続きなどの情報も提供する。</p>
<p><b>国際交流事業・多文化共生推進事業 補助金申請団体 募集 締切:31日(火)16:30</b> 市民活動団体が実施する、川崎市の国際化に寄与する国際交流または多文化共生推進事業が対象。申請書は交流協会のホームページからダウンロードできます。</p>	<p><b>9月</b> <b>外国につながる子どもの高校進学ガイダンス 21日(月・祝)</b> <b>無料</b> 日本語を母語としない生徒への高校進学説明会。高校の相談ブースや先輩の体験談があります。</p>
<p><b>外国人のための日本語講座(1学期)</b> ◎午前コース(火・金) 9:50~11:50 4月14日~6月30日(全22回) ※1歳から子どもをあずけることができます。 ◎夜間コース(水) 18:30~20:30 4月8日~7月8日(全12回) ※多言語で問い合わせ・申し込みができます。</p>	<p><b>10月</b> <b>ふれあい交流会 17日(土)</b> 外国人講師による家庭料理と文化紹介の講座</p> <p><b>11月</b> <b>インターナショナル・フェスティバルinカワサキ 8日(日)</b> <b>入場無料</b> さまざまな国の音楽やダンス、文化、物産、料理が体験できるフェスティバル。</p>
<p><b>外国人のための市営住宅説明会 13日(土)</b> <b>無料</b> 説明を受けながら、市営住宅の申込書を書きます。希望者には通訳がつきます。 <b>英語による国際理解講座(全3回)</b> ネイティブスピーカーから英語で文化などを学びます。(英語中上級レベル対象)</p>	<p><b>2027年 2月頃</b> <b>外国につながる子どもと保護者のためのプレスクール/外国につながる子どもの小学校入学説明会</b> <b>無料</b> 小学校の仕組みや入学のための準備についての説明会。交流センターや区役所、市民館等で開催。</p>
<p><b>7月</b> <b>やさしい日本語研修会 4日(土)</b> <b>無料</b> 外国人に伝わりやすい日本語のコツを楽しく学びます。講師:吉開章((一社)やさしい日本語普及連絡会代表理事)</p>	<p><b>毎月 第3日曜</b> <b>外国人のための「行政書士による無料相談会」 14:00~16:00</b> <b>無料</b> 行政書士に相談ができます。通訳は予約してお金を払います。</p>

※詳細は川崎市国際交流協会・センターのホームページをご覧ください。

## 賛助会員(KIANサポーター)募集! 新年度会員の期間 2026年4月1日~2027年3月31日

賛助会員は、川崎市国際交流協会の事業にご賛同いただける個人・団体が加入していただけます。賛助会員には、主催イベント・講座のご案内、一部イベントや講座への優先受付等の特典があります。皆さまのご支援、ご協力をお願い申し上げます。

※詳しくは以下にお問合せください。

(公財)川崎市国際交流協会  
TEL:044-435-7000

E-mail:soumu2525@kian.or.jp



賛助会費 ●学生会員 1口 1,000円/年 ●個人会員 1口 3,000円/年 ●団体会員 1口 10,000円/年

**ひとみ座寄席**  
笑う門には福来る。お蔭様で、第70回を迎えます。  
出演:入船亭扇遊師匠ほか  
2026年5月23日(土)  
国際交流センターホールにて開催です。

**編集後記**  
川崎市国際交流センターの機関誌は、1990年3月から二色刷りの「KIAN」(川崎市国際交流センターの愛称)として始まり、2009年7月の105号からはカラーの「SIGNAL」(信号、合図)としてこの春号の172号まで、年4回、季節ごとに発行してまいりました。これまで国際理解や多文化共生社会の推進を目指して、海外の生活や文化の情報、市民レベルでの国際交流活動等を発信してきましたが、さらなる多文化共生社会の推進を目指し、情報提供の形も外国人市民へより伝わりやすいデジタル化したもの(SNS)に生まれ変わります。今号で機関誌「SIGNAL」は終了いたしますが、川崎市国際交流センターはこれからもさまざまな形で情報発信を続けてまいります。今後ともどうぞよろしくお祈りします。(川崎市国際交流協会 加藤 恵美)

**行政書士かさまゆみこ事務所** Gyoseishoshi Kasama Yumiko Office (immigration lawyer)  
在留資格・ビザ・永住・帰化などのご相談はこちらへ  
Consultation on Status of residence, VISA, PR, Japanese nationality etc.  
TEL: 044-920-9521 E-mail: office@kasamayumiko-office.jp  
HP: http://www.kasamayumiko-office.jp/  
川崎市中区新丸子東1-830-12藤原ビル2階(新丸子駅から徒歩1分)  
自分で申請したら不許可になってしまったケースなど、難しい案件も、あきらめず、ぜひご相談ください

企画・校正にたずさわった編集ボランティア(五十首順)  
相澤弥生、安藤節子、内田美加、岡崎章、川口俊樹、川野辺幸夫、正一努、高橋一彦、高橋優子、芳賀扶美世、松波陽介、水野裕子、安田芳郎、湯澤英子、李芷君  
発行  
**川崎市国際交流センター**  
〒211-0033  
川崎市中区木月祇園町2番2号  
TEL 044-435-7000  
FAX 044-435-7010  
E-mail:kiankawasaki@kian.or.jp  
https://www.kian.or.jp/kic/